

## 伊勢湾貧酸素情報（第 5 報）

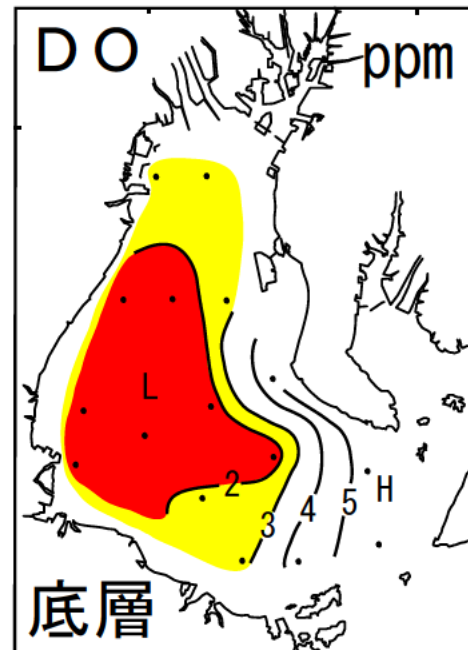
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾中央部を中心に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

### 10月9日の調査結果

10月9日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 23.4～24.1℃、10mで 23.7～24.2℃、底層で 22.3～24.4℃の範囲にあり、表層と 10mでは平年よりやや高めから高め、底層では平年並となっていた。塩分は表層では 21.52～30.21、10mで 30.61～32.49、底層で 32.14～33.58の範囲にあり、表層では平年並、10mと底層では平年並からやや高めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 7.2～12.2ppm、10mで 2.4～7.8ppm、底層で 1.1～5.9ppmの範囲にあり、表層では湾奥で高め、湾中央から湾口で平年並、10mでは平年並、底層では平年並からやや低めであった。貧酸素水塊は先月の観測時と比較して少し縮小していたが、湾中央部を中心に 2ppm以下となっていた。

水温は表層と底層の温度差は小さくなっているが、塩分は表層で低塩分、底層では高塩分傾向にあるため、まだ上下混合が起こりにくい状態であり、しばらくは貧酸素化が継続すると考えられ、今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



貧酸素水塊分布図